

政局の行方

県選出キーマンに聞く

◇上◇

2010年が明けた。間もなく開会する通常国会では、10年度予算案の審議と、鳩山由紀夫首相や小沢一郎民主党幹事長の「政治とカネ」をめぐる問題で、与野党の攻防戦が激化する見通しだ。7月には参院選も控える。激動と変革のただ中にある国政は、今後どこへ向かうのか。県内の民主、自民、公明各党のキーマンに、09年の総括と今年の展望を聞いた。

09年は政権交代を果たし、と、政務三役が一体で仕事をすること、役所を掌握し、

「非常に大きな変化の年だった。政権交代で政治のいろいろな決定プロセスが変わった。具体的には、閣議で物事を決める。政治主導が変わった。具体

細野 豪志氏（民主党組織・企業団体委員長）



官僚答弁を廃止する国会法の改正に意欲を示す
細野氏（東京・永田町の衆院第1議員会館）

補正・当初予算案成立に全力

という点では、比較的順調なスタートを切った」
一方、課題も多かったのではないですか。

「政策の中心については、厳しい現実には、最も苦勞したのは赤字国債を増発せずに予算を組むこと。もう少しムタの削減に切り込めると思っていたが、時間的な制約もありハードルが高かった。結果的にマネフェストのすべての項目を実行できなかったことは、おわびしなければならぬ。読みが甘いと云われても仕方ない」

小沢幹事長との二重権力構造も指摘されています。す。

「リーダーシップにはいろいろある。鳩山首相の個性は、人の話をしっかりと聞いた上で最後は自分で判断するところ。初めに方向性を打ち出して、ついてこいというリーダーシップとは違う。小沢幹事長の影響が強く見えるのは、党内に在るわれわれの力不足も原因。政府に対する重点要望の作成にはわたしを含め複数の副幹事長が関与し

た。ところが、周囲に力が足りないと思われているためか、すべて小沢幹事長が書いたかのように報じられてしまっている」

通常国会は何が焦点となりますか。

「何と言っても経済と雇用。この厳しい局面を乗り切れるだけの政策をしっかりと実現できるかどうか。まずは09年度の2次補正予算案と10年度当初予算案をしっかりと成立させること。官僚による答弁を禁止し、国会議員同士がきちんと議論できるような国会改革にも着手したい」

今年参院選もありま

「党としては単独過半数の獲得。静岡選挙区は2人区だから、県選としては候補者を1人に絞って1議席を確実に取る戦略が最も良い。ただ、そこに甘んじている限り党勢拡大はないし、複数区には複数人擁立するという党の大方針とも合致しない。党の方針は重い。その中で、2人目を擁立するかどうかを判断することになる」